

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

競走馬育成センター整備による地域再生計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

成田市

3 地域再生計画の区域

成田市の区域の一部(大字猿山、大字七沢、大字大菅、大字小野および大字名古屋)

4 地域再生計画の目標

成田市は、下総台地北縁のほぼ中央に位置し、市内全域に台地が分布しており、縁辺は侵食により樹枝状の無数の谷が切り込んだ谷地を形成している。谷地の農地は遊休化しているところも多く、良質な土砂が採れるため、土採り跡地も多数点在している。また、千葉県は、全国でも有数のゴルフ場の密集地であり、計画中断ゴルフ場および新たな破綻ゴルフ場の発生による大規模未利用地の出現が懸念され、これらの低・未利用地における産廃等の不法投棄の問題が顕在化しており、その対策が喫緊の課題となっている。

一方、千葉県は「観光立県千葉」をビジョンにかかげ、地域固有のストック(観光資源)を活用した地域の魅力づくりによる地域の振興・再生をめざしている。

本市は、日本の空の表玄関である成田国際空港、及び「成田のお不動様」で全国に知られた成田山新勝寺を擁しているが、利根川、印旛沼、下総台地などの恵まれた自然を活かした観光振興が今後の課題となっている。

特に、本市で特徴的なことは、かつて下総御料牧場が設置され、国が中心となってサラブレッドの輸入・繁殖を始めたこともあり、本市周辺は競走馬の一大産地となっていることである。利根川を挟んだ茨城県側には日本中央競馬会(JRA)の美浦トレーニングセンターが立地し、また本市に隣接している富里市を中心に育成牧場が立地している。競走馬育成センター整備予定地は、これ

らの地域のちょうど中間点にあっている。

また、近くにはふれあい牧場「成田ゆめ牧場」、滑川観音、小御門神社があり、地域振興にも大きく寄与している。

他方、圏央道の整備が進んでいることなどから、本区域の開発ポテンシャル等に鑑み、計画的な土地利用を誘導する必要がある。

「観光立県千葉」の推進

地域特性に鑑み、県ビジョン「観光立県千葉」の推進に資する拠点整備による地域の再生を図る。

【地域特性】

- ・ 馬に関わりが深い歴史性（旧御料牧場の設置、かつての馬産地）
- ・ 育成牧場と JRA 美浦トレーニングセンターとの中間点という立地性
- ・ 成田国際空港を有する国際空港都市

負の連鎖の解消

本区域において、農地が一部遊休化し、また土採り跡地も多数点在し、これらの低・未利用地における残土捨場や産業廃棄物等の不法投棄の問題が顕在化している状況を踏まえ、計画的土地利用のもとで、「低・未利用地の有効活用による地域再生」と「不法投棄等の負の連鎖解消」をめざす必要がある。

【課題】

- ・ 圏央道の整備に伴う計画的土地利用
- ・ 産業廃棄物等の不法投棄対策
- ・ 土採り跡地等の安全基準に係る懸念

土採り跡地は、その多くが排水、防災等に対する措置がなされていないまま危険な状態で放置され、地域住民の安全安心のためにも、早急な対応が必要である。また、土採り跡地問題は、全国的な課題・テーマでもあるので、自然を活かし、かつ民間を中心とした再利用化の実現が図れば、全国の同様の課題を抱えている地域においても先導的な取り組みになる。

（目標 1）競走馬育成センター整備による新たな雇用の場の確保

～新たな雇用者数、目標1,000人～

現在、競走馬は多くが民間の中小規模の育成牧場にて休養・調整されている状況であり、また、首都圏近郊には、直線坂路コースのある牧場はなく、

大規模育成牧場が足りない状況にある。

また、現在施設が整った大規模育成牧場が、美浦トレーニングセンター近辺に不足していることから、美浦トレーニングセンターに近い本区域において、低廉で利用できる直線坂路コースが整った育成牧場を整備することにより、競走馬のレベル向上と、新たな雇用の場の確保が期待される。

さらに、畜産の学習を行っている県立下総高校生産技術科は、実習の場が少ない状況にあるので、整備を予定している育成牧場を実習研修が行える場としても提供する。そのことにより地域貢献、社会学習にも寄与し、卒業生の雇用にも結びつくと期待される。

(目標 2) 乗馬を通じて馬とふれあう効果を活用し、癒し・リフレッシュに寄与する

～年間利用者数、目標10,000人～

ストレスの多い現代社会においては、ニートやひきこもり、自殺者の増加などが社会現象となっている。これらの人材の喪失は、日本経済にとって大きな打撃となっている。しかし、そのような人たちを社会復帰に導く整備されていないのが現状である。

そこで、馬とのふれあい効果を活用した、ひきこもり、不登校の児童・生徒の情操教育、障がい者の自立支援の一環として、「馬とのふれあい」を心身の回復促進の動機付けとする療育を採り入れ、社会復帰の手助けを行う。また、児童・生徒および障がい者の心理を理解し、コミュニケーション能力を有する介護者を「ホースセラピスト」として育成するための「ホースセラピスト養成講座」を開講する。

(目標 3) 不法投棄、用水汚染、崖崩れ等の危険箇所の解消

～不法投棄、用水汚染、崖崩れ、ゼロ目標達成～

本区域の地形は、農地や山林が大部分を占め、緑地環境に恵まれた地域であるが、土採り跡地による環境悪化や景観阻害、また、生活用水を井戸水に依存している地域では、土採り跡地を放置することで、将来不法投棄による地下水汚染などが懸念されている。

安心して定住するために、これらの悪影響を及ぼす要因を解消し、安心安全のまちづくりのため、土採り跡地、ゴルフ場開発計画跡地、これらの地域に隣接した谷地農地を一体的に整備し、緑豊かなまちを維持していく仕組みづくりを行う。

5 目標を達成するために行う事業

5 - 1 全体の概要

本区域は農地が一部遊休化し、また土取り跡地等も多数点在している。こうした状況を踏まえ、競走馬育成センターや乗馬クラブを整備することにより、「低・未利用地の有効活用による地域再生」と「不法投棄等の負の連鎖解消」を目指す。

5 2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

該当無し

5 - 3 その他の事業

5 - 3 - 1 基本方針に基づく支援措置

(支援措置の名称)

C3003 地域再生支援のための「特定地域プロジェクトチーム」の編成

(1) 「特定地域プロジェクトチーム」を設置して取り組むべき課題

特定地域プロジェクトチームの編成によって、競走馬育成センターの整備を核に、乗馬クラブ、教育・実習などの機能を有した施設を整備し、「低・未利用地の有効活用による地域再生」と「不法投棄等の負の連鎖解消」を目指す必要がある。

(2) 「特定地域プロジェクトチーム」設置の必要性

競走馬育成センターの実現化にあたっては、整備手法や管理手法など、農林・畜産・観光・競馬界等の多分野に渡る検討が必要なため、農林水産省・国土交通省をはじめ、行政、関係団体、経営主体となる民間企業、NPO法人等によるプロジェクトチームの設置が必要となる。

特定プロジェクトチーム参加想定先

「特定地域プロジェクトチーム」の構成は、現段階において、以下を想定している。

プロジェクトチーム想定先	助言等を要する事項（テーマ）
国 地方支分部局	
国土交通省関東地方整備局	<ul style="list-style-type: none"> ● 非線引き用途無指定地域や圏央道整備周辺において多数点在する大規模低・未利用地を適正かつ有効に活用するための計画的土地利用の規制・誘導方策 ● 土採り跡地等における排水、防災、景観対策等、地域住民の安全・安心のための対応策
国土交通省関東運輸局	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光振興拠点としての競走馬育成センターや乗馬クラブのあり方（例えば、ホースセラピーの活用による観光振興方策）と周辺観光資源との広域連携方策 ● 教育・学習機能と観光機能の融合・複合化のあり方
農林水産省関東農政局	<ul style="list-style-type: none"> ● 競走馬育成センターや乗馬クラブの整備による遊休農地等の有効活用に関する土地利用のあり方 ● 施設整備に伴う周辺農用地、集落への影響・負荷を軽減するための方策
環境省関東地方環境事務所	<ul style="list-style-type: none"> ● 大規模低・未利用地や山林への産業廃棄物等の不法投棄防止対策、および不法投棄された場合の速やかなる撤去の方策
地方公共団体	
千葉県健康福祉部	<ul style="list-style-type: none"> ● 障がい者の自立支援の方策
千葉県環境生活部	<ul style="list-style-type: none"> ● 産業廃棄物対策の方策 ● 環境影響対策の方策
千葉県商工労働部	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光立県に向けた具体的方策（観光振興）
千葉県農林水産部	<ul style="list-style-type: none"> ● 遊休農地等の有効活用に関する土地利用のあり方
千葉県県土整備部	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光立県に向けた具体的方策（土地利用）
千葉県教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ● 県内に多く有する各種牧場施設の教育との連携方策
成田市企画政策部	<ul style="list-style-type: none"> ● 全市的な総合調整
成田市都市部	<ul style="list-style-type: none"> ● 大規模未利用地の計画的土地利用方策
成田市経済部	<ul style="list-style-type: none"> ● 低・未利用地の有効活用による地域経済再生方策
成田市環境部	<ul style="list-style-type: none"> ● 本市における産業廃棄物対策方策
成田市保健福祉部	<ul style="list-style-type: none"> ● 本市における障がい者の自立支援のためのホースセラピーの活用
成田市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ● 本市における動物を活用した初等教育や地域環境教育の推進
成田市農業委員会	<ul style="list-style-type: none"> ● 本市における遊休農地の有効活用について
地元経済団体等	
成田市観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域資源を活用した観光拠点形成方策
下総商工会	<ul style="list-style-type: none"> ● 牧場を核にした連関型の産業振興方策

(3) 取り組みにより達成される成果

特定地域プロジェクトチームの編成によって、「競走馬育成センター整備事業」に係わる各種協議・調整の円滑化が図られ、もって事業の早期実現が可能となる。

事業の実現によって、地元の雇用促進効果、観光振興による地域経済への波及効果等が見込まれる。

また、国・県等の協力を得ながら、適正な土地利用を誘導することができる。

5 - 3 - 2 支援措置によらない独自の取り組み

(1) 競走馬育成センター整備事業

- ・ 坂路を持つ直線約 1 , 2 0 0 メートルのトレーニングコースの整備
- ・ 既存の牧場ではなかなか見ることができない育成中の競走馬が間近に見れる育成牧場づくりを図る。
- ・ JRA と同等の調教・ケア施設を完備し、美浦トレーニングセンターに入れなくても、最先端の育成・治療等が行えることにより、周辺育成牧場所有馬等のレベルアップに貢献する。
- ・ 下総高校等との連携による課外体験実習の受け入れ

(2) 乗馬クラブ整備事業

- ・ 馬による癒し効果リフレッシュ効果が得られるホースセラピーを実施する。
- ・ ホースセラピストの養成を行う。

(3) その他

- ・ 街並み美化、観光イベントの開催、PR 活動などによる通年型の観光地づくり事業、外国人観光客誘致のための外客来訪促進事業などを実施している。また、市内観光拠点を巡る観光循環バス運行事業を実施する予定である。
- ・ 各自治会に委嘱した不法投棄監視員による監視活動や環境保全指導員および環境保全巡視員による巡視活動を実施している。

6 計画期間

認定を受けた日～平成24年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

計画終了後、評価委員会を開催し、4に示す目標に照らし状況を調査、評価し、公表するとともに、改善すべき事項の検討等を行うこととする。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当無し